

## 「気」と植物エネルギー

北海道医療大学 薬学部 薬用植物園

北方系生態観察園 准教授

堀田 清

漢方の基本的概念に「気」というものがあります。「気」とは生命の源。人間が地球上で生きていくための根源的なエネルギーのことです。どの漢方の教科書にも「気」とは「目に見ることのできない…」と書かれていますが、植物たちが「天空の気（太陽の光、CO<sub>2</sub>）」と「大地の気（水、その他の栄養分）」から作りだす緑色は、目で見ることのできる「気」の色だと思うのですがいかがでしょう。

**私**は13年前までは新薬開発に欠かせぬ基礎学問である有機化学、その後、薬用植物学、生薬学の修行をする一方で、大学内に放置されてきた荒れた16ヘクタールの森に繁茂していた笹を駆除しながら里山作りも手がけてきました。そしてここ数年は漢方の修行、そして一年中、北海道各地の森や山へ出かけ、一眼レフカメラで植物たちと会話をしながらその元気をフィルムに収めてきました。そうしているうちに、地球上に生きている植物すべて（山野草、樹木、野菜、果物、穀類、薬用植物）が、漢方という「気」そのものだという考えに至りました。

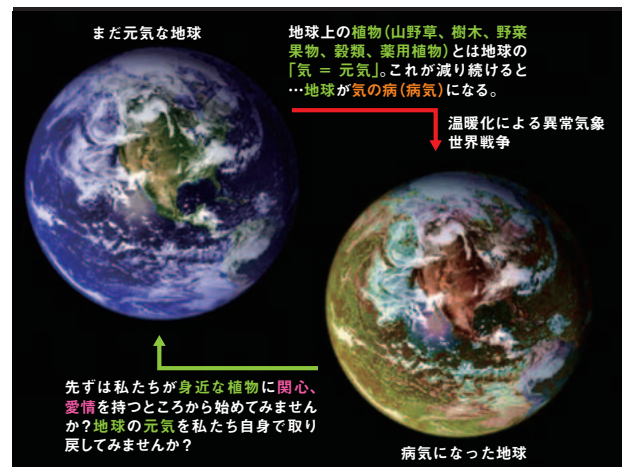
**私**事で恐縮ですが、有機化学を極めようとしていたころは、全ての血液検査はレッドゾーンでしたが、漢方を学び植物たちをメインにして仕事を開始してから数年後、長年患っていた持病も消え、身体もスリムになり、心身ともに健康になっていました。そして私を健康体に戻してくれたこのパワーを、私は「植物エネルギー」と名づけたのです。

**と**ころで、「地球上から植物がいなくなったら、あらゆる有機生命体は絶滅する」。これは科学的エビデンスなど必要のない絶対的な真理です。今、人間の限度を知らない欲によって、地球上からステキな植物がものすごいスピードで減っています。これは、地球全体の「気」(元気)が減少し、地球そのものが病んでいくことを意味します。病んでいく地球に病んだ人が増えていくことは当然のことですし、ましてや、科学だけで病気を克服するにはかなり無理があるように思えます。地球の「気」が全ての植物なら、科学だけで地球上の植物を増やすことは簡単ではないことは誰でも知っているはずですが。

**植**物たちと出会う前、「人類は地球上にはびこる悪性のウイルスかガン細胞のようなものではないか。このまま

行くと、人類が地球を滅ぼしてしまうのではないか。」などと悲観的なことを考えた時期もありました。しかし今は違います。植物が地球のために大切な役割を果たしている以上、それを利用している私たち人類もまた、地球のために大切な役割を持って生を受けているはずですが。

**国**言語、宗教の違いをはるかに超えて、地球上の全ての人にとって等しく重要で、心の中に愛を生むことのできる唯一可能性のあるもの。それが植物だと思います。私たちの身近な所に植物はたくさんいるはずですが。その身近な植物に目を向け、関心を持つ人が増え、植物を愛する人が増えれば、人類全体の心が豊かになり、想像力が養われ、自分さえよければよいという考え方が減って、植物たちが増え、地球環境も良くなり、地球も元気になって病気になる人も減る。そして世界が平和になる — そんな良い循環が生まれるのではないのでしょうか。



**漢**方が教えてくれる「気」ということを地球レベルで考えてみませんか。そして身近な植物の「気」、植物エネルギーを目から取り入れてみませんか。まずは、毎日食べる「大地の気」、野菜の花なんていかがでしょう。白菜と大根の花をご覧下さい。ただ食べるだけよりも、花をイメージしながら食べると、きっと効果絶大だと私は思うのですが。

